

学習指導要領	都立葛飾総合高校 学力スタンダード
聞くこと ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	・相づちを打ったり、繰り返しや説明を求めたりしながら、相手の話に関心をもって聞き続けることができる。 ・聞き取れない単語や未知の語句があっても、前後関係や文脈を考えて、内容を推測するなどして聞き続けることができる。 ・事物に対する紹介や対話などを聞いて、メモを取るなどして、聞き続けることができる。 ・5～6文のややまとまった長さの文章について、情報や考え、事実と意見を区別し、整理しながら聞くことができる。 ・英語による指示や言い換えられた文章を聞いて理解することができる。 ・場面や状況、相手の表情などを踏まえて、話し手の意図を把握し、質問や指示などに適切に応じることができる。 ・リズムやイントネーションなどに表れる話し手の意図や気持ちを捉え、音のつながりや欠落に注意して的確に聞くことができる。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。
読むこと イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。	・自発的に英和辞典を活用しながら、300～600語程度の教科書の文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。 ・教科書の文章を読んで、文中に未知の語句があっても、前後関係や文脈を考えて、推測しながら読み続けることができる。 ・教科書の文章の単語の発音及び文章のリズムやイントネーションに気を付けて、聞き手に伝わるように明瞭に音読することができる。 ・教科書の文章を、センテンス毎に、適切な速度と音量で音読することができる。 ・教科書の文章を読んで、つながりを示す語句の知識に注意しながら、英語の論理展開を理解する

	学習指導要領	都立葛飾総合高校 学カスタンダード
話すこと	ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。	る。 ・教科書の文章を読んで、事実と意見などを区別して内容を理解し、自分なりの意見や感想を英語で交換することができる。 ・教科書の文章の段落の中で、トピック・センテンスとサポーティング・センテンスの関係を理解し、各段落の役割と文章全体の流れを理解する。 ・幅広い話題（例えば異文化理解、環境問題など）についての文章を読み取るための語句や、文法事項を理解する。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。 ・英語学習者向けの英字新聞や雑誌、インターネット上の記事を読んで、概要を理解する。 ・1年間に、サイドリーダーを2冊以上読む。 ・300～600 語程度の教科書の文章の内容を理解した後に、英語の質問を聞いて、文章で答えることができる。 ・教科書で扱った身近な話題や自分の興味、関心があることについて、既習の語句や表現を活用して、ワークシートやメモなどを利用しながら、英語で相手に伝えることができる。 ・ペアやグループで、幅広い話題について、学んだことや経験したことに基づき、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。 ・うまく言えないことがあっても、既習の語句や表現を用いて、情報や考えを相手に伝えることができる。 ・単語の発音に気を付けながら、場面や状況、相手の反応などを踏まえて、リズムやイントネーションを意識して、十分な声の大きさ、適切な速度で話すことができる。 ・日常生活の様々な場面で必要となる語句や表現、文法事項を身に付けている。 ・図やグラフなどの資料を使って、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。

	学習指導要領	都立葛飾総合高校 学カスタンダード
書くこと	エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。	・事実と意見などを区別して、既習の表現を活用して話すことができる。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。 ・既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違うことを恐れずに、学んだことや経験したことに基づき、幅広い話題について 40 語程度の文章を書くことができる。 ・教科書の文章について、パートごとに、2～3 文程度の要約文を書くことができる。 ・教科書の文章や、聞いたり読んだりした内容について、40 語程度で感想や意見を書くことができる。 ・トピック・センテンスやサポーティング・センテンスの構成を考え、つながりを示す語句を適切に用いながら、文章を書くことができる。 ・手紙や電子メールの書き方などの知識を身に付け、お互いに意思を伝え合うことができる。 ・事実と意見などを区別して、既習の表現を用いて書くことができる。 ・自分で書いた文章を読み直し、表現の曖昧さをなくしたり、語句や文法などの誤りを正したりして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。 ・うまく表現できないことがあっても、既習の語句や表現を用いて書くことができる。 ・必要に応じて英和辞書などを活用して書く。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。

